団体名：苫小牧腎友会
回答日：令和５年１月４日

# 要望書（回答）

① 2014 年度から始まりました、自家用車による年額 9,000 円の支給を受けられる通院補助は、透析患者の通院の多様性や実態に対応しているものであり、本制度を維持して頂いている事について、心より感謝申し上げます。苫小牧市福祉のまちづくり条例の第 13 条にて「市は、福祉のまちづくりに関する施策を推進するため、必要な財政上の措置を講じるよう努めるものとする。」とあります。最近では、世界情勢の不安定化等によりガソリンの価格が高騰し、レギュラーガソリンが 160 円台で推移していることをふまえ、自家用車の通院補助額の適正化について再度、検討頂けますよう、お願い申し上げます。

【回答】（福祉部障がい福祉課　担当）

自家用車で定期的に通院をしている方を対象として行っている重度心身障害者通院交通費助成については、平成27年度以降、多くの方にご利用いただいていることから、まずは、制度の維持に引き続き努めていきたいと考えています。

なお、補助額についてですが、現時点では利用者が増加傾向にあることから、今しばらくは現行の内容のまま実施していきたいと考えています。

② 臓器移植は透析患者が透析を逃れる唯一の手段です。北海道では現在、570 人の腎臓移植希望者（臓器移植ネットワークの公表データ）が待機しています。今年に入ってからは、10 月までに 3 件（移植数は 4 個）の腎臓移植手術が実施されました。北海道での移植件数の推移をみると、移植医療は後退しているように思えます。このような状況が長く続いたことで、移植実施までの待機年数が平均 20 年以上とたいへん長くなりました。苫小牧腎友会では３年ぶりに港まつりにて、保険証や免許証の裏に意思表示の記載をお願いする声掛け活動を行なうことができました。できるだけ多くの方に臓器移植の現状を知って頂くために、市が情報を発信する媒体において移植の現状について広報して頂けますよう、検討のほど、お願い致します。

【回答】（健康こども部健康支援課　担当）

臓器移植の普及啓発については、厚生労働省・日本臓器移植ネットワークのリーフレットを本市健康支援課に窓口に置き、市民の皆様に周知しております。

臓器移植の現状や重要性、臓器提供意思表示カード記入につきましては、広報とまこまいやフェイスブック、市公式LINE等を活用し、広く周知を図ってまいります。

③　苫小牧市の福祉のまちづくり条例第 11 条には「市は、高齢者、障害者等に関し、災害時における安全性を確保するため必要な措置を講じるよう務めるものとする。」とあります。災害対策の一環として、災害時の要支援者の確認と名簿作成の活動をして頂いていることについて感謝申し上げます。要支援者を把握することは、災害対策の第一歩として意義があることで、今後も本活動を継続して頂けるよう、お願い申し上げます。

私達の透析には、透析設備とスタッフ、透析機械を動かす電力を得るための予備の発電機に加え、1 回の透析につき 1 人あたり 120L と、大量のきれいな水が必要です。透析を行うには、これらの確保が必須です。一昨年の要望書提出の際に、市内の透析施設の代表者による会議が行われたと聞きました。今年度の代表者会議の開催状況や、会議の結果等について情報公開をして頂けますよう、お願い致します。

【回答】（健康こども部健康支援課　担当）

透析連携ミーティングにつきまして、主催者側より腎友会様の御参加について了承を得ておりますが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止されておりますので、開催の折には、改めてお声掛けさせていただきます。

④　8 月 31 日に市民会館にて、iPS 細胞研究の成果を市民へ啓蒙するための講演会を計画、実施して頂いたことについて、会を代表して、心から感謝申し上げます。当日は、あいにくの雨天でしたが、200 名を超える多くの方が参加し、iPS 細胞研究の最新の成果について理解を深めることができたのではないかと思っております。苫小牧腎友会としては、今後も京都大学の iPS 細胞研究を応援し続ける所存です。苫小牧市におかれましても、たとえば、京都大学 iPS 細胞研究所の寄付金講座を広報誌等で告知して頂く等、研究活動を下支えするような広報活動をお願いしたく存じます。

【回答】（健康こども部健康支援課　担当）

京都大学iPS細胞研究所における再生医療が病気を抱える患者様の希望であることは理解しておりますが、広報とまこまい等において、特定団体のみの寄附情報を掲載することが難しいため、何卒ご理解いただきたく存じます。